

小学校5年 「ツクランカー」を活用した表現活動

～まちの工夫を紹介するデジタルマップをつくろう～

横浜市立宮谷小学校 近藤 睦

【実践報告の概要】 まちの調査活動によって、横浜駅西口を中心にした宮谷のまちには、新しい時代に合う工夫がたくさんあることに気付いた子どもたちは、多くの人に知ってもらいたいと願い、情報マップを作成した。紙のマップではなく、新しい情報を加筆・修正できるデジタルマップを手段に選び、見てくれた人からのアンケートの結果をもとに、改善を繰り返すことを通して創造性を育むことをねらった。

【取組の具体】

小単元1 国語の学習を活かして、横浜駅西口を中心にした、まちの調査報告文を書いた。そして、自分たちも知らなかった誰もが使いやすい工夫がたくさんあることに気付いた。

小単元2 自分たちの気づきを多くの人に伝えるためには読みやすい文の形式に変える必要が出て来た。紙のマップでは、変化の激しい横浜駅周辺についての新しい情報を載せていくことができない。また、配布場所や印刷予算など、解決しにくい課題が多くある。そんな時、番組の視聴がヒントになった。形式を検討した結果、デジタルマップを作成することにした。横浜市都市整備局や、地元の社団法人など、多様な方々と関わり、改善を重ねながらスクラッチを活用して制作した。



スクラッチで制作したデジタルマップの一部

小単元3 できたデジタルマップを広める策に迷い、西口周辺の社団法人に協力を求めた。地元イベントの参加や、商店会との連携を果たすことで、校内外を問わず「宮谷のまちには、新しい時代に合った工夫がたくさんある」ということを広める活動を続けながら、まちの変化や見てくださった方からのフィードバックをもとに、デジタルマップを改善し続けることができた。

小単元4 保護者に向けた活動成果報告会を開いて、ここまでの活動の価値と、自分たちが活動の中でつけた力は何かを振り返って確認した。

【活用番組と実践者による番組分析】

ツクランカー「ぼうさい①」

ツクランカーは、ものづくりを通じて問題解決能力を育む STEAM 教育の番組である。番組の中では、総合的な学習の時間を軸にした教科横断的なカリキュラムマネジメントや、ものづくりのヒントが示されている。「ぼうさい①」では、既存の紙のハザードマップをさらに広めていくためにデジタルマップの作成が紹介されている。新しい手法での表現活動を促す効果があると考えられる。

【本実践における工夫点】

【アンケートの結果から、傾向を解釈する学習を活かす】

社会の資料の解釈、算数「割合を示すグラフ」、国語「図表やグラフを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」など、積み重ねて来た教科の力を活かすようにする。

【相手の反応を受けて、次の活動にどう活かすかの具体策を考える】

多くの人に広めていくための方策を考える中で、QRコードを使用し、ポスターを制作することでイベントでの活用、協力者のお店やHPにも貼ってもらえる事になった。意図を伝えるポスター、次はカード、チラシなど、強い必要感に駆られて、子供たちは次々と取り組んでは、相手の反応に合わせて表現を工夫していく事になる。



【本実践の成果と課題】

デジタルマップを作成する過程で、横浜市都市整備局、地元の社団法人など、多様な立場の方々のご意見をいただいた。他者からのフィードバックを改善に活かすことが有効であることに気付いた子供たちは、デジタルマップを広める過程でも見てくださる方にアンケートに答えてもらい改善を繰り返した。マップだけでなく、広報の仕方や、活動の意味をも問い直すことから、マップや活動そのものを創造していくことが、子供たちのまちつくりの見方・考え方に影響していった。

この活動を継続して残すことに課題が残った。